

# だいきく通信 第三十五号 「秋の号」

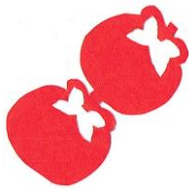
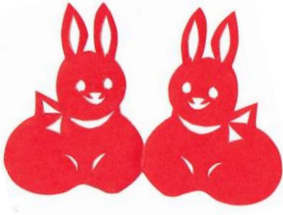
いあつ

今年の夏は生命に危険を及ぼしかねないほどの暑さでした。加えて西日本では大水害、北海道では大きな地震と、日本列島は立て続けに大きな災害に襲われました。

災害にあわれた地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。自然の猛威を目の当たりにして、改めて日ごろからの備えの大切さを痛感いたしました。今一度身の回りをしっかり点検しておこうと考えた次第です。

社報「だいきく通信」第三十五号をお届けします。今回の内容は、催し物とご寄贈のご報告、神社にまつわる豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターが活躍する漫画などです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



## 大國神社の今

(一) 第四回だいきくクラシックスを開催しました

恒例となりました、秋の「だいきくクラシックス」、今回は、第一回以来ご登場いただいています東京都交響楽団第二ヴァイオリン副首席奏者の小林久美さんに、同じく東京都交響楽団ヴァイオラ奏者小林明子さんを加えたお二人によるデュオ・リサイタルとして開催しました。思いのこもった演奏で、モーツァルトとマルティヌーの二重奏曲、そしてそれぞれの独奏をご披露くださり、豊かな秋のひと時を過ごすことができました。

小林久美さん、小林明子さん、そしてご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

だいきくクラシックスは今後も継続していきたいと考えております。どうぞご期待ください。



(二) 催事の椅子をご寄贈いただきました

このたび、飯能市の 中川進 様より催事の椅子をご寄贈いただきました。ご厚意に厚く御礼申し上げます。

中川様には、「だいきくクラシックス」をはじめ、「だいきく落語会」など当神社の催事に、企画・交渉など全体にわたってご尽力をいただいております。ご寄贈くださいました椅子は、前項でご報告しました第四回だいきくクラシックスの際、さっそく使わせていただき、ご来場の皆様からご好評をいただきました。今後催事の際、大切に活用させていただきます。



## お宮あれこれ「烏帽子」と「笏」

神社でのお祓いするとき、神職は決められた装束を身に着けます。今日はその中から「烏帽子(えぼし)」と「笏(しゃく)」についてお話ししましょう。

まず、「烏帽子」は、紙で作った帽子で、表面にはたくさんの皺(しぼ)がついており、黒い漆で塗り固めてあります。

「えぼし」という名前は「えぼうし」がつづまったものです。本来は元服した、つまり成人した男子が使用したかぶりものでした。律令制では朝廷に出資する際は冠をつけることとされていました。これに対して身分の区別なく成人男子が日常身に着けるようになったのが烏帽子です。もともとは布製の柔らかいものでしたが、貴族は身なりをととのえるため、薄く漆を塗って引き立てた形にしたため「立烏帽子」、また外出したときに風でてっぺんのあたりが折れたところから「風折(かざおり)」とも呼ばれました。一般民衆は柔らかい素材のまま



使い、「揉み烏帽子」「梨打ち烏帽子」などと呼ばれました。その後、漆で塗り固めたものが普通になっていき、室町時代末には儀礼用にしか使われなくなりました。

次に「笏」をみましょう。これも神職が祭礼の際に使う、薄く、細長い木の板です。この「笏」という字はもともと「こつ」という読みでしたが、「骨」と同じ読みになるのを嫌い、「笏」が長さ一尺であるところから「尺」の字と同じ読みを使



って「しゃく」と呼ぶようになったそうです。古くは裏に儀式の次第などを書いた紙（いわばカンニング・ペーパーですね）を貼って、備忘用に使われましたが、のちには身なりを整えるための道具となりました。

なお、笏の材質について、大宝令では身分五位以上は象牙、六位以下は木製と定められていました。その後、平安時代の『延喜式』では五位以上も白木製がみとめられ、さらにのちには、礼服のときを除きすべて木製の笏が使われるようになりました。

ところで、神職の作法には笏の用い方も含まれており、特に儀式の中で礼をする（頭を下げる）作法について笏の持ち方、扱い方が細かく定められています。たとえば儀式中の基本姿勢では笏の下端を右手で持ち真直ぐに立てることになっていますが、「拝（はい）」という深いお辞儀の際は、両手で構えた笏の先端を目の高さまで持ち上げ、身体と一緒に前に倒して深い礼をします。また、会釈をする「揖（ゆう）」では両手で構えたまま胴体に引きつけて上体を倒します。祭儀の際の礼は場面によって体の倒し方が異なり、上体を傾ける角度の目安が定め

られています。そこで、神職は自分の構えた笏の傾き方をみて、正しい角度になっているかどうかを確認しています。

神社でお祓いを受ける際、神職が身に着けているものにも注目してみると、新しい発見があると思います。（前のページとこのページにある二枚のイラストで、神職が着ているのが「狩衣」です。読み方は最後のページの連載まんがで！）

## 祭礼・祈禱などのご案内

お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

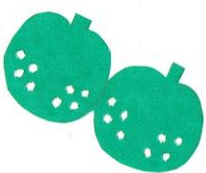
○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話 ○三―三九一八―七九三〇

携帯 ○八〇―一九八七―八七一六

eメール daikokujinja@gmail.com





(連載まんが)

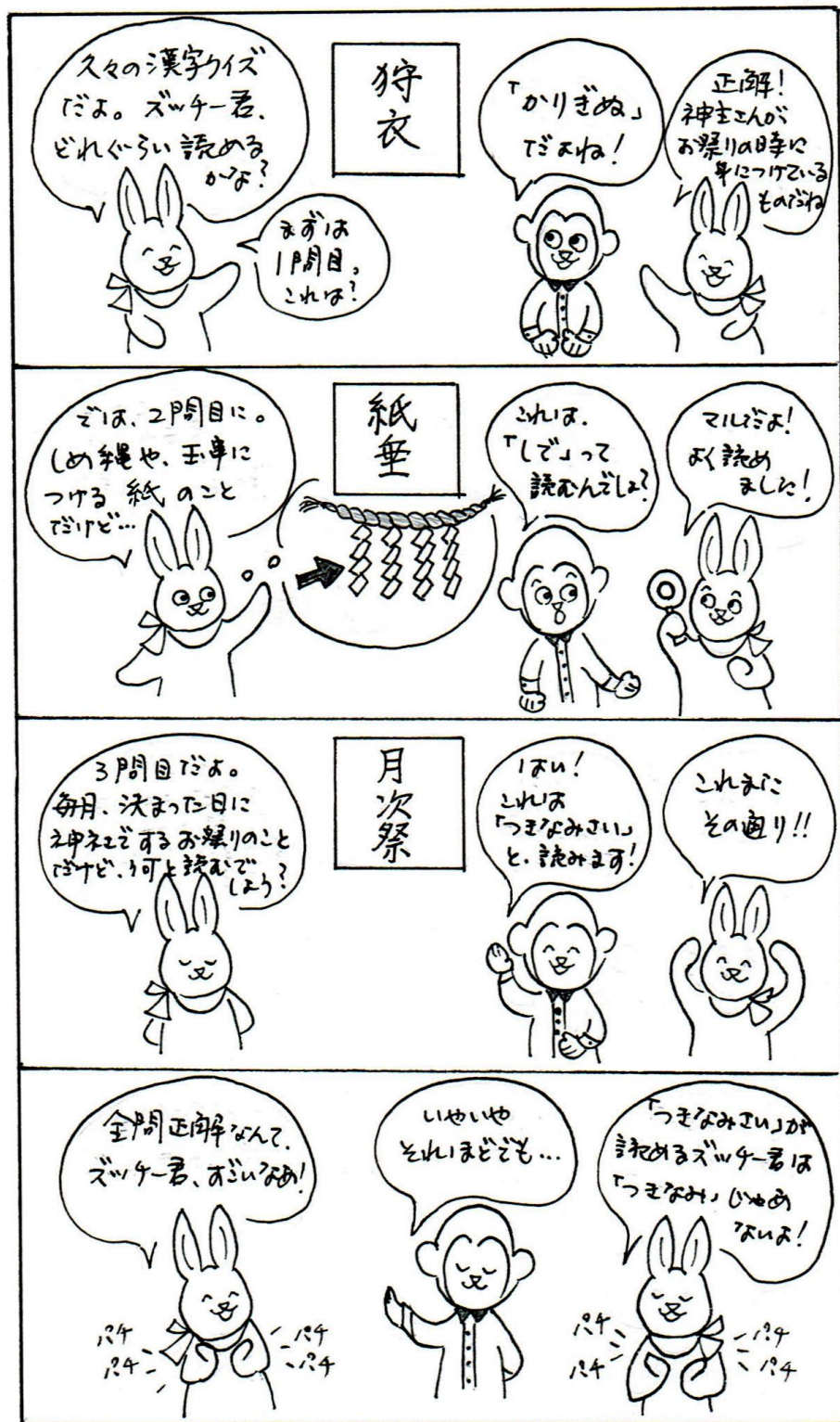
# 大吉うさぎ ～漢字クイズ その2～ くま こまち 作



○次回甲子祭

平成三十年十一月二十八日(水) 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午



## 次号発行予定

「だいいく通信第三十五号」、いかがでしたか。次号「夏の号」は、平成三十年十一月二十八日の甲子祭に発行予定です。

「だいいく通信」第三十五号 平成三十年九月二十九日発行  
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一

<http://www.daikokujinja.org>